

かしま 議会だより



第97号

令和元年6月議会号

令和元年8月発行

発行／鹿島市議会 編集／議会だより編集委員会
〒849-1312 佐賀県鹿島市大字納富分2643番地1 TEL63-2104 FAX63-2314

佐賀県遺産に 中村與右衛門屋敷と永溪山泰智寺が認定されました。



中村與右衛門屋敷(なかむらよえもんやしき)

第4代七浦村長として40年にわたって村政の発展に尽くした中村家10代当主與右衛門が明治43年に、江戸時代の屋敷をその形状のまま建て替えたもので、正門や主屋、茅葺きの茶室など、一部が当時のままの姿で残されています。

現在では、中村與右衛門の人柄と功績を偲んで保存会が発足し、演奏会や後援会の場としても活用されています。



永溪山泰智寺(えいけいざんたいちじ)

肥前浜宿の酒蔵通り近くにある鹿島鍋島藩の菩提寺で、元和8年(1622年)鹿島藩初代藩主鍋島忠茂公により現在地に移築されました。本堂に向かって左手の墓所には、初代藩主忠茂公をはじめ歴代藩主の御霊が祀られています。

寺の背景には松岡山がたたずみ、前面には多々良川が流れる、鹿島市を代表するロケーションです。

6月定例会	P2～P3
議案審議	P4～P5
一般質問	P5～P10
委員会報告	P10
意見書	P11
議長・副議長就任あいさつ	P12
各委員会の構成	P12～P14
動議	P15
議会あれこれ・編集後記	P16



令和元年 鹿島市議会
6月定例会会期日程

1、会期
自 令和元年6月7日
至 令和元年6月25日

2、日程

7日 開会
会議録署名議員の指名
会期の決定
議案の一括上程
(市長の提案理由説明)

8日 休会

9日 休会

10日 休会(議案研究)
発言内容通告締切
(正午)

11日 休会(議案研究)

12日 休会(議案研究)

13日 議案審議、委員会付託、質疑、討論、採決

14日 休会(議案整理)

15日 休会

16日 休会

17日 文教厚生産業委員会(議案、請願)

18日 休会(議案整理)

19日 一般質問(4名)

20日 一般質問(3名)

21日 一般質問(3名)

22日 休会

23日 休会

24日 休会(議案整理)

25日 委員会審査報告、議案審議、質疑、討論、採決、閉会

令和元年 鹿島市議会
5月臨時会会期日程

1、会期
自 令和元年5月8日
至 令和元年5月10日

2、日程

【5月】

8日 開会
議長の選挙
副議長の選挙
議席の指定
会議録署名議員の指名
会期の決定

9日 常任委員の選任
議会運営委員の選任
杵藤地区広域市町村圏組合議会議員の選挙
鹿島・藤津地区衛生施設組合議会議員の選挙
佐賀県西部広域環境組合議会議員の選挙
佐賀県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙

10日 議案の一括上程
(市長の提案理由説明)
議案審議、質疑、討論、採決
閉会中継統調査申出
閉会

次のことを審議し決定しました

【5月臨時会】

議案番号	議案内容	中村日出代	池田廣志	高松昭三	杉原元博	樋口作二	中村和典	中村一堯	稲富雅和	勝屋弘貞	伊東茂	松尾勝利	徳村博紀	福井正	松尾征子	松田義太	角田一美	採決結果	
議案第40号	専決処分事項の承認について(鹿島市税条例の一部を改正する条例)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	承認
議案第41号	専決処分事項の承認について(鹿島市国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長	賛成多数	承認
議案第42号	専決処分事項の承認について(平成30年度鹿島市一般会計補正予算(第7号))	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	承認
議案第43号	鹿島市監査委員の選任について	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	同意
議案第44号	鹿島市固定資産評価員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	同意

【6月定例会】

議案第45号	鹿島市森林環境譲与税基金条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	
議案第46号	消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長	賛成多数	可決
議案第47号	鹿島市特別職の職員で非常勤のものの報酬並びに費用弁償支給条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	
議案第48号	鹿島市税条例等の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	議長	賛成多数	可決	
議案第49号	令和元年度鹿島市一般会計補正予算(第2号)について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	
議案第50号	杵藤地区広域市町村圏組合規約の変更に係る協議について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	
議案第51号	鹿島市公共下水道中牟田グリーンセンター改築工事委託に関する協定の締結について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	
請願第1号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2020年度政府予算に係る意見書採択の要請について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	議長	賛成全員	採択	
意見書第1号	教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書(案)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	議長	賛成全員	可決	

議案審議

議案審議

議案第45号

鹿島市森林環境譲与税基金条例の制定について



伊東 茂議員

質問 平成31年3月29日に公布された森林環境税及び森林環境譲与税が譲

与される。
鹿島市での森林環境税の納税対象は1万4千人となり、年間一人千円が納税される。譲与税を有効に使うための森林環境保全計画を問う。
答弁 譲与税は森林の多面的機能の保持を目的に

①災害予防②CO2削減③国土景観保全④生物多様化保全に力を注ぐ。
また、間伐の費用削減を図っていく。初年度は基本調査を行い、森林組合へ事業を委託し、環境保全に努める。

議案第49号

令和元年度一般会計補正予算(第2号)について



勝屋 弘貞議員

■保育体制強化について
質問 保育士業務の軽減として、働き方改革にも

どのような募集方法だったのか。申し込みがすくないと思うが。
答弁 2月14日にメールで案内送付、申し込み期限は2月26日。市内の保育所・認定こども園15事業所に対し意向調査をし、申し込みがあった5園分を計上している。県の補助事業で上限は

月額9万円。それを上回る分については各園の負担となる。
6園は無回答で、希望しなかった4園中2園は当初予算計上分の「保育補助者雇上げ強化事業」を利用されている。

議案第49号

令和元年度一般会計補正予算(第2号)について



福井 正議員

■移住推進事業について
質問 6月補正予算の新規予算として、移住推進事業200万円が計上さ

れている。その説明欄に移住対象者が東京23区の在住者もしくは23区への通勤者に限定されているが、その理由は。
また、200万円の予算だが、何人分なのか。
また、鹿島市への移住取り組みはどうしているのか。

答弁 東京23区に限定しているのは、23区の人口が多いためである。
予算は1家族上限100万円、1人だと60万円。
鹿島市では、佐賀県移住支援センター等を活用して移住促進に取り組んでいる。

議案第49号

令和元年度一般会計補正予算(第2号)について



稲富 雅和議員

質問一 緊急風しん抗体検査等事業費補助金についてお伺いする。
答弁 感染力が大変強い

以降、関東地方で風しんの患者が増え、30歳から50歳の方が公的な予防接種を受ける機会がなかった世代があるため、風しんの発生と蔓延を予防するための対策が必要となるための緊急事業である。
質問二 全員に受けて頂きたいがそのための施策は。

答弁 抗体検査は3年間で段階的に行い、まず1年目は昭和47年4月2日から昭和54年4月1日までの方に市から案内を送る。650人に検査をしていただく。

令和元年度一般会計補正予算(第2号)について

議案第49号



松田 義太議員

質問 学校給食センターの厨房内給水給湯管張替工事として660万円計上されている。これまでも、施設の老朽化につい

て質問してきたが、食の安全(異物混入)、アレルギー対策、空調など職場環境の改善など考慮すれば、給食センターの建て替えを真剣に検討する時であると思うが、担当課の見解は。

答弁 これまでも改修などを行ってきた。開設から30年以上が経過し、建

て替え地等の課題もあるが、より具体的な検討をする必要な時期になってきたと考えている。

一般質問

鹿島市の子育て支援について



杉原 元博 議員

質問一 鹿島市における児童虐待の現状は。

答弁 全国的には増加傾向だが、本市における対応件数は減少。最近はネグレクトといわれる虐待への対応が増加。
質問二 虐待の早期発見、早期対応について。

答弁 要保護児童対策地域協議会を設置。その意義と利点は、①要保護者等の早期発見、②要保護者等への迅速な支援開始、③関係機関の連携による情報の共有化などである。
質問三 児童虐待の解決策を教育長に聞く。

答弁 解決のためには、「母親を支える視点」

「子どもを守る視点」「教育の視点」の3つが大切だと考えている。
質問四 鹿島市子育て支援センターの利用状況、相談の件数・内容について聞く。
答弁 平成30年度延べ利用人数は、1万9077人で、平成27年度との比較で、2309人、率で13.8%の増加。特に市外利用者が、率で27.6%と大幅に増加、相談件数は3652件で、内容は主に子育てに対する不安や家族の協力が得られない等の不満。
質問五 本年4月に設置された子育て世代包括支援センターの周知について聞く。

答弁 母子保健推進員の乳児全戸訪問、ケーブルテレビ、回覧板を活用した広報も考えている。

議案第45号 賛成討論

松尾 征子議員

■森林の持つ公益的機能を維持するために

森林環境税および森林環境譲与税が公布された。これにより今年から森林環境譲与税が譲与されることになった。財源は国民から森林環境税として

年間1000円徴収し、県などを通して市町村に配分されるもの。
森林の公的機能の恩恵を受けているということ

増税は許せないが、森林業のために国からの譲与を受けることには賛成するもの。

議案審議・討論

一般質問

蟻尾山公園内施設の有効利用について

質問一 蟻尾山公園内各施設の利用状況は。

答弁 陸上競技場2万1644人、市民球場1万4051人、サブグラウンド2万7142人、グラウンドゴルフ場9743人で合計7万2580人と推移は概ね横ばい。
質問二 グラウンドゴルフ場とサブグラウンド付近にトイレが必要だと思

うか。
答弁 これまでも数回検討されたが、設置の考えはない。4年後の国民スポーツ大会期間中は、臨時トイレを設置する計画である。
質問三 夜間の照明使用料金体系と補助について

聞く。
答弁 市内外の同等施設を参考に、利用者が負担しやすい料金設定をしている。サブグラウンドの基本使用料は無料であり、照明使用料のみの負担で利用できる。助成を検討することはない。

一般質問

長崎新幹線に対する市長の見解は



松尾 征子 議員

質問 「早期着工をめざす」と参議院選挙公約にした自民党が突然「月内の素案提示見送りか」という新聞報道がなされた。与党検討委員会は参議院選挙の影響を考慮しているようだが参議院選挙後に検討する見通しだと報道された。

長崎本線の存続を

質問一 国は地方のどんな声にも応えずに強行にやってくる。県の考えをしっかりと支えていかなければいけない。

このままいけば予定の2022年開通は考えられない。その間鹿島市民はもちろん長崎本線沿線の足は守れない。新幹線が開通したとして長崎本線の運行はどのようにになるのか。

答弁 知事は「新鳥栖・武雄間は新幹線整備を求めている。現在も求め

答弁 開業から23年間JRが運行。3年間は肥前鹿島、博多間を上下14本ほど現行水準で特急が走る。

ていない。財政負担だけの問題ではない。急に違うことを言われても出来るものではない。合意をもとに、進んできたのではないかと発言。

私は（樋口市長）「在来線の利用については、運行計画などわからない。配慮が見えない。知事の考えを支持する」と発言した。

質問二 特急は今のままなのか、ディーゼルか。肥前山口駅からディーゼルと聞いているが。

答弁 デイゼルで博多、鹿島間と聞いている。

質問三 デイゼルのなれば沿線住民の足は奪われる。小さい駅など廃止の恐れもある。

新幹線が2022年までに開通できず、長崎本線は決まり通りディーゼルになるとすれば問題。何としても長崎本線はそのまま存続させなくてはならない。

答弁 今、県にも入ってもらい、江北・白石・太良と協議会をつくって、どうするかということに対応している。

健康長寿について



高松 昭三 議員

新地域支援事業について

質問一 鹿島市は、この支援事業は、鹿島市社会福祉協議会に一部委託されていると思うが。

答弁 社会福祉協議会は、地域福祉の推進と、地域福祉のボランティアの活動拠点としての中心的な役割を担っている。

質問二 重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けたいと願っている方がほとんどと思うが、その対応は。

答弁 国のアンケート調査では約83%の人がそう答えている。住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」

の構築実現こそ「福祉の町づくり」と考える。

質問三 超高齢社会が進む今、現在市内の独居老人世帯数及び、高齢者世帯数の対象者は。

答弁 鹿島市社会福祉協議会平成31年4月1日の調査では65歳以上の独居老人は「1297名」、高齢世帯数「2596名」となっている。

質問四 市より鹿島市老人クラブ連合会に対する「事業委託料について」平成20年より11年間続いていた事業費が、今年大幅に削減された理由は。

答弁 高齢者生き甲斐と、健康推進という事業で、ウォーキングや料理教室等の事業に国や、県の公費を財源として、支援事業として実施してきたが、平成30年度から、国の方針として削減された。

鹿島市の今後の交通体系について



福井 正 議員

九州新幹線長崎ルート（長崎新幹線開業後の長崎本線について）

質問一 長崎新幹線は、2022年度までに武雄温泉～長崎間が新幹線規格で、整備在来線区間をフリーゲージトレイン（FGT）で運行予定であったが、FGTの開発断念で当分武雄温泉駅での対面乗り換え方式での運行となっている。

与党PTや長崎県内の一部自治体が鳥栖～武雄間をフル規格での整備を求めているが、佐賀県としては当初案と違う方式で、新たな費用負担や時間短縮効果、並行在来線問題などがあり、フル規格の整備に難色を示され

ている。このような状況の中、鹿島市にとって唯一の高速交通体系である長崎本線がどうなっていくのか不安を覚える。

2016年の6者協議（与党PT・国土交通省・鉄道運輸機構・佐賀県・長崎県・JR九州）で合意されたディーゼル特急で当分1日上下14本、博多～鹿島間普通列車現状の本数運行となっている。

質問二 山口佐賀県知事は「もとよりフル規格での新幹線整備は求めている」と発言されている。鹿島市長の考えは。

答弁 知事の考えを支持する。



鹿島市の交通利便性の確保について



松尾 勝利 議員

質問一 九州新幹線西九州ルートが開業した場合、長崎本線の特急本線が大幅に減り、市民の足に影響を及ぼすことが考えられる。県と協議会を立ちあげ話し合いが行われていると伺った。内容について説明を求め。

答弁 佐賀県と長崎本線に關係する自治体（江北町・白石町・鹿島市・太良町）で、長崎本線沿線地域対策等連絡会議を平成28年8月より行っている。

肥前山口から諫早までの上下分離に関することや、長崎本線沿線地域のまちづくり・地域づくりに関することなど、連携して効果的な取組みを推進している。

昨年、観光列車・グルメ列車をJRと沿線市町が協力して行った実績がある。市としても、現在の長崎本線の列車を多くの市民に利用してもらい、実績としてあげることが、今後の協議に活かされたいと考える。

質問二 長崎本線の列車が減便された場合、これからの交通の利便性を確保するには、道路の整備を早急に進めるべきかと思う。

現在の道路期成会の要望状況等はどうか。

答弁 有明海岸道路は計画に沿って整備が進められている。鹿島・諫早間は有明海岸地域の高速交通のミッシングリンク（空白地帯）になっている。

関係する鹿島市・諫早市・太良町で期成会を作り要望活動を行っている。2市1町に加え、国や県にアドバイザーとして



一般質問

空き家対策について

質問一 空き家対策について住宅が建っている土地と、更地の固定資産税の違いについて。

答弁 条件と面積300㎡、評価単価1万5000円/㎡の宅地とした場合、(A)更地では、4万7250円。(B)住宅が建っている時は、1万5000円。



一般質問

鹿島市の発展と干潟の活用



樋口 作二 議員

質問一 アゲマキが棲めないほど悪くなった干潟を再生する取り組みが鹿島市で行われているか。

答弁 河口の滞りを掘る、海底を耕耘する等の対策は実施されたが、竹などを刺して牡蠣礁を作る取り組みはまだない。

質問二 砂や竹などを入れて干潟を再生し、生き物を増やす取り組みは誰でもできるのか。

答弁 佐賀県の沿岸海域にはほとんど共同漁業権が設定され、漁業調整委員会の認可が必要である。

質問三 干潟交流館も完成し、貴重な泥干潟を良好な状態で残すことは鹿島市の進展に欠かせないと考えられるが、今後どのような取り組みをされるか。

て行かれるのか。

答弁 海の森事業やEM菌を使用した水環境の改善活動を続けながら、子供たちの環境教育を通じて有明海に目が注がれるよう努力していきたい。

母ヶ浦川水系の問題点と防災

質問一 問題点をどのように認識しているか。

答弁 水路に高低差がない、増水時には住宅地への浸水の恐れがある、河川等の管理者がいない等問題が多い。

質問二 増水時の樋門の管理は誰が行うのか。

答弁 土木事務所がパワースイッチを手配し、地元で流木等処理している。

質問三 河川が樹木等で覆われ危険な状況であるが撤去の予定はないのか。

答弁 管理者がいないが、片側は農林事務所撤去の予定である。

質問四 排水のための大型ポンプを設置する予定はないか。

答弁 総合的に解決したい。

質問五 洪水の場合、七浦干拓ため池への開門の責任者はだれか。

答弁 当該区長と七浦干拓の運営委員長の話し合いで行われている。

質問六 抜本的な解決は検討されているか。

答弁 関係機関が多く問題を複雑化しているが、国道の改善計画と合わせて検討していきたい。



▲七浦干拓への水門

緊急農業振興プロジェクトの展開について



中村 和典 議員

質問一 平成28年11月から市独自で取り組んできた4つのプロジェクト活動を通して何が見えてきたのか。

答弁 市の産業部を挙げて通常業務以外に取り組んでみて、農業を取り巻く様々な課題を再認識するとともに、農業政策の意義や関係団体との連携また、農業の大切さや農家への敬意などを学ぶことができた。

質問二 このプロジェクトチームの成果を今後どのように活かしていくのか。

答弁 農林漁業者応援プロジェクト・意欲ある新規就農者定着支援事業・かしま農業経営相談所などの農業競争力強化対策・新しい農地制度対

策・中山間地活性化対策・鳥獣被害対策等すでに、予算化をして取り組んでいる事業、また今後新たに予算化をして事業として取り組み、農業施策の充実を図りたい。

さが園芸888億円推進運動の取り組みについて

質問一 2017年に629億円だった佐賀県の園芸産出額を10年間で888億円、約1.4倍に伸ばす運動が始まるが、この運動の目指すところは。

答弁 園芸農業で稼げる農家を育成し、その背中を見て新規就農者が育成され、園芸産出額の大幅な向上を目指すものである。

質問二 鹿島市の農業産出額の現状及び目標は。

答弁 鹿島市の平成29年の農業産出額は約81億円です。そのうち園芸作物が59.3億円と全体の73.2%を占めている。目標額については、まだ設定していないが、県の目標値から推計すれば約84億円になる見込みである。



▲久保山の田園風景

質問三 この運動を展開させるための支援施策の内容は。

答弁 所得の向上が期待できる園芸農業(野菜・果樹・花卉等)の振興に力を入れて取り組み「稼げる農業」を実現するためハード・ソフト事業の両面から支援を行う。主にハウスや機械導入・露地野菜の生産振興・新品種「いちごさん」、佐賀果試35号の技術確立等に対し県や市で高率の助成制度を予定している。本格的な実施は、来年度からとなる。

高齢者の交通について



中村 一堯 議員

質問 高齢者ドライバーが免許証を返納することにより交通手段をなくされたり、ご家族に大変な負担のしかかっている。買い物や病院へ行く時に非常に困られている高齢者が年々増加している。現在鹿島市では路線バスや高津原乗り合いタクシー、運賃が安い予約型タクシーなどで公共交通手段を確保されているが、市民の声をどのように聞いて路線変更や便の増減を行っているのか。

また、バスも予約型タクシーも通っていない公共交通の空白地域として犬王袋や世間、小舟津、森、土井丸、七浦や飯田の山手の方などがあり、ご自宅から市内までのタ

クシー代に4500円以上かかるような地域もある。

公共交通でカバーできない地域に対しては誰もが使えないような交通手段で市民の足を確保して欲しいが、今後のように計画がなされているか。

答弁 路線バスを廃止した地域に運賃の安い予約型タクシーを現在運行しているが、概ね好評をいただいている。今後とも路線バスを廃止する地域にまずは予約型タクシーを計画しているが、公共交通の空白地域からの要望もあるので、利用希望者の声や数を把握しながら多くの市民が有効に利用できるようにしていく。

消防について

質問 市民から防災無線で放送される「火災場所(火災現場)」が非常に

わかりにくいという声を聞く。私は消防団としても活動しているが、火災現場がわからずに山奥の方で道に迷った消防車なども何台も目にした。市民がわかりやすいように放送内容を変更、直すこと。

また消火活動を行っている消防団員へは「火災現場」へ正確に到着できるようににグーグルマップやライン等での位置情報を発信し、スマホやナビなどで道に迷わないようにするべき。鹿島市の対応は。

答弁 昔は火災現場の番地やお名前などを放送していたが、かなりの時間がかかっていた。今はすぐに位置情報を送れるようになった。ナビなどのシステムについては今後協議していく。

第二次産業の推進について



稲富 雅和 議員

質問一 農福連携の取り組みについて考えをお伺いします。

答弁 協議した結果、福祉団体より要請があれば、農業団体とも協議をしたと思う。障がい福祉の観点から農業が選択として広がるのは良い事で、連携、個性に合わせた作業工程が必要。

ふれあいから始め、良好関係を築くのが必要で働きやすい環境作りや知識を持って人材の確保が大事だと思う。

質問二 農福連携に向けて市の役割はどう考えるのか。

答弁 一般就労への支援や農業者へ意義の説明会を開き理解をしてもらう事や、マッチングの仕組

社会教育について

質問 社会教育について体験学習の重要性をどう考えているのか。

答弁 学校教育法の中で小中学校において体験的な学習活動としてボランティア活動、奉仕体験活動、自然体験活動その他の充実を努めるとあり、学校で体験活動を行うのは大きな意義があると思う。



意見書 第1号

教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書

学校現場においては、長時間労働の是正にむけて教職員の働き方改革がすすめられようとしています。しかし、2020年度の小学校新学習指導要領に外国語教育が盛り込まれたことで授業時間が増え、放課後の時間が減っています。教師は、外国語を含めた様々な授業の教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっております。働き方改革と逆行しています。教職員自らの資質向上に日々努力し、精進していく事は当然と考えますが、ゆたかな学びの実現のためには教職員定数改善などの施策が最重要課題です。

年々、普通学級における発達障がいを持つ児童が増加傾向にあり、個別対応が困難を極めています。また、特別支援学級に入級しても、特性の強い児童同士は反発し個別の対応に苦慮していることから、支援学級の増設が急務です。

義務教育費国庫負担制度については、小泉政権下の「三位一体改革」の中で国庫負担率が2分の1から3分の1に引き下げられました。厳しい財政状況の中、独自財源により人的措置等を行っている自治体もありますが、自治体間の教育格差が生じることは大きな問題です。国の施策として定数改善にむけた財源保障をし、子どもたちが全国のどこに住んでいても、一定水準の教育を受けられることが憲法上の要請です。

子どもの学ぶ意欲、主体的な取り組みを引き出す教育の役割は重要であり、そのための条件整備が不可欠です。こうした観点から、2020年度政府予算編成において、下記事項が実現されるよう強く要請します。

記

- 1、子どもたちの教育環境改善のために、計画的な教職員定数改善を推進すること。
2、教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため、義務教育費国庫負担制度の負担割合を2分の1に復元すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年6月25日

佐賀県鹿島市議会

内閣総理大臣 安倍 晋三 様
衆議院議長 大島 理森 様
参議院議長 伊達 忠一 様
総務大臣 石田 真敏 様
財務大臣 麻生 太郎 様
文部科学大臣 柴山 昌彦 様

教育・子育て環境の充実について



松田 義太 議員

質問一 昨年は、記録的猛暑が続き、児童生徒の安全、健康を守るための対策が喫緊の課題として全国的に各小中学校にエアコン設置が図られている。鹿島市内小中学校の設置、進捗状況について伺います。

答弁 7月10日を目途に、市内小中学校の普通教室のエアコン設置は完了する予定。特別教室も順次取り付けを検討している。現在、市内全教室のエアコン設置率64%。

質問二 登下校の見守りについて、神奈川県川崎市でスクールバスを待つ児童、大人が襲われる事件があった。学校や通学路の安全確保として、関係団体との連携は欠かせ

ないと思う。学校、市内の防犯ボランティア、地元警察の協力を得て、危険箇所の再点検、協議を行うべきと思うが担当課の見解は。

答弁 危険箇所の再点検、青色パトロールの強化を含め、関係団体に協力をお願いし、7月に協議を行いたいと考えている。

質問一 農林水産省は、昨年7月の西日本豪雨でため池(堤)に多数の決壊被害が出たことを受け、新たな基準のため池の災害リスクを調べ直した。鹿島市においては「防災重点ため池」は何か所あるのか。

答弁 今回の基準見直しで9ヶ所増え21ヶ所になった。

質問二 防災重点ため池について、2019年度内にため池マップを作り住民へ周知すること、又、老朽化に伴い補強が

必要なため池の優先順位を早急に判断することが求められているが、市の取り組み状況は。

答弁 各ため池のハザードマップの作成、耐震診断等が行っており、今後、市民への周知に取り組んでいきたい。



質問三 各地区において自主防災組織が設置されているが、災害時の避難場所への誘導、独居老人避難行動要支援者の対応など課題が多い。市のサポート体制について伺います。

答弁 出来る範囲で指導、助言などは行っている。今後も市民の皆さんと災害の強いまちづくりを努力していきたい。

文教厚生産業委員会 審査報告書

鹿島市議会
議長 角田 一 美 様

令和元年6月13日の本会議において付託されました議案第45号「鹿島市森林環境譲与税基金条例の制定について」は、6月17日に委員会を開き、審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上、会議規則第98条の規定により報告します。

文教厚生産業委員会
委員長 中村 一 亮

文教厚生産業委員会 審査報告書

鹿島市議会
議長 角田 一 美 様

令和元年6月13日の本会議において付託されました請願第1号「教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2020年度政府予算に係る意見書採択の要請について」は、6月17日に委員会を開き、審査の結果、原案のとおり採択すべきものと決しました。

以上、会議規則第98条の規定により報告します。

文教厚生産業委員会
委員長 中村 一 亮

鹿島市議会 議長 角田 一美



令和元年5月8日開会の鹿島市議会臨時会において、議員各位のご推挙をいただき、議長に就任いたしました。誠に身に余る光栄と感激いたしますとともに、その職責の重さに、改めて身の引き締まる思いです。「市議会」は「市長」とともに、市民の付託に応え、その権利を保障する責務を負っています。市の意思決定機関である「市議会」は、

市民の多様な意見を代表して熟議することを基本姿勢とし、議員間の自由闊達な討議を通じ、論点及び争点を明らかにし、合意機関として常に公平性及び透明性を確保し、活動してまいります。市民の皆さんから更なる信頼を得られましよう、議員一人ひとりが自己研鑽に励み、地域において頼られる存在となれるよう努力を重ねてまいります。市民のみなさんのより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

鹿島市議会 副議長 松田 義太



5月に開催された市議会臨時会におきまして、議員各位から副議長のご推挙を賜り、誠に身に余る光栄であり、その責任の重さに身が引き締まる思いであります。今後は議長の補佐役として職務を遂行し、市政の推進、議会の公正かつ円滑な運営に努めてまいります。

現在、議会におきまして、人口減少や少子高齢化などの地域課題に向き合い、鹿島の魅力を活かしたまちづくりに取り組んでおりますが、さらなる議会改革を推進し、市民の皆さまの声を市政に反映できるように、議会報告会や市内各種団体の皆さまとの積極的な意見交換会等を開催してまいります。今後とも、市民の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

鹿島市議会常任委員会等委員名簿

○議会運営委員会委員

委員長	伊東 茂
副委員長	松尾勝利
委員	徳村博紀 稲富雅和 中村一堯 杉原元博
定数	6

※オブザーバー 松田義太
オブザーバー 角田一美



○総務建設環境委員会委員

委員長	稲富雅和
副委員長	樋口作二
委員	池田廣志 高松昭三 伊東 茂 徳村博紀 松尾征子 松田義太
定数	8



○文教厚生産業委員会委員

委員長	中村一堯
副委員長	杉原元博
委員	中村日出代 中村和典 勝屋弘貞 松尾勝利 福井 正 角田一美
定数	8



○まちづくり対策特別委員会

委員長	勝屋弘貞
副委員長	杉原元博
委員	高松昭三 中村和典 稲富雅和 伊東 茂 徳村博紀
定数	7

※オブザーバー 松田義太



○公共交通対策特別委員会

委員長	福井 正
副委員長	樋口作二
委員	中村日出代 池田廣志 中村一堯 松尾勝利 松尾征子
定数	7

※オブザーバー 角田一美

公共交通対策特別委員会の設置についての動議

1. 市議会に公共交通対策特別委員会を設置し、7名の委員をもって構成する。
2. 市議会は、公共交通対策特別委員会に対し、公共交通の確保とその利活用に関する諸問題の調査研究を付託する。
3. 公共交通対策特別委員会の調査研究に要する経費は、予算の範囲とする。
4. 公共交通対策特別委員会は、議会の閉会中も調査研究を行うことができるものとし、議会が調査研究の終了を議決するまで継続して調査研究を行うものとする。

以上、動議を提出する。

令和元年6月25日

提出者 鹿島市議会議員 杉原元博
鹿島市議会議員 中村一堯
鹿島市議会議員 稲富雅和
鹿島市議会議員 伊東茂
鹿島市議会議員 松尾勝利
鹿島市議会議員 徳村博紀

鹿島市議会議長 角田一美様

まちづくり対策特別委員会の設置についての動議

1. 市議会にまちづくり対策特別委員会を設置し、7名の委員をもって構成する。
2. 市議会は、まちづくり対策特別委員会に対し、まちづくりに必要な公共施設等の計画から整備に関する諸問題の調査研究を付託する。
3. まちづくり対策特別委員会の調査研究に要する経費は、予算の範囲とする。
4. まちづくり対策特別委員会は、議会の閉会中も調査研究を行うことができるものとし、議会が調査研究の終了を議決するまで継続して調査研究を行うものとする。

以上、動議を提出する。

令和元年6月25日

提出者 鹿島市議会議員 杉原元博
鹿島市議会議員 中村一堯
鹿島市議会議員 稲富雅和
鹿島市議会議員 伊東茂
鹿島市議会議員 松尾勝利
鹿島市議会議員 徳村博紀

鹿島市議会議長 角田一美様

○議会報告会プロジェクト(鹿島市議会運営等改革検討会)

チーフ	松尾征子
サブチーフ	松尾勝利
委員	中村日出代 池田廣志 高松昭三 杉原元博 中村和典 松田義太
定数	8

○ICT活用推進プロジェクト(鹿島市議会運営等改革検討会)

チーフ	徳村博紀
サブチーフ	伊東茂
委員	樋口作二 中村一堯 稲富雅和 勝屋弘貞 福井正 角田一美
定数	8

○議会選出各種委員・議員

名称	推選数	委員・議員	任期
監査委員	1	中村和典	R5. 4.29
杵藤地区広域市町村圏組合議会議員	2	角田一美 福井正	R5. 4.29
鹿島・藤津地区衛生施設組合議会議員	4	樋口作二 稲富雅和 勝屋弘貞 松尾征子	R5. 4.29
佐賀県西部広域環境組合議会議員	2	伊東茂 松田義太	R5. 4.29
佐賀県後期高齢者医療広域連合議会議員	1	松田義太	R5. 4.29

○議会選出各種委員(議会推薦)

名称	推選委員数	委員・議員	任期
鹿島市部落差別撤廃人権擁護審議会委員	3	松田義太 稲富雅和 中村一堯	R2. 7.10
鹿島市民生委員推薦会委員	1	杉原元博	R1. 8.31
鹿島市都市計画審議会委員	3	池田廣志 高松昭三 伊東茂	R1. 7.31
鹿島市青少年問題協議会委員	2	中村日出代 徳村博紀	R2. 6.30
鹿島市農林漁業災害復旧融資審議会委員	1	松尾勝利	R5. 4.29

議会あれこれ

(令和元年4月～6月)

4月

- 4日 議会だより編集委員会
- 21日 市議会議員選挙投票日
- 22日 議会だより編集委員会
- 25日 議員代表者会
新任議員説明会

5月

- 8日 全員協議会
5月臨時会 開会（～10日まで）
全員協議会
- 9日 常任委員会
議会運営委員会
全員協議会
- 10日 全員協議会
議案審議、採決 閉会
全員協議会
- 15日 正副議長 あいさつ廻り
- 16日 新任議員研修
- 21日 佐賀県後期高齢者医療広域連合議会
5月臨時会
- 22日 議会運営委員会
文教厚生産業委員協議会
- 24日 佐賀県市議会議長会
- 28日 全員協議会
総務建設環境委員協議会
文教厚生産業委員協議会
- 30日 九州市議会議長会定期総会

6月

- 5日 議会運営委員会
- 7日 6月定例会 開会 議案の上程（～25日）
文教厚生産業委員協議会

6月

- 10日 九州市議会議長会 理事会
臨時佐賀県市議会議長会
- 11日 全国市議会議長会定期総会
- 13日 6月定例会 議案審議 質疑、討論、採決
全員協議会
- 17日 文教厚生産業委員会
- 19日 6月定例会 一般質問（～21日）
- 21日 文教厚生産業委員協議会
全員協議会
- 25日 議会運営委員会
6月定例会 委員会報告、質疑、
討論、採決 閉会
全員協議会

行政視察受入状況

(平成31年4月～令和元年6月)

5月14日 鳥取県倉吉市議会 6名

5月21日 福岡県うきは市議会 8名

議長交際費を公表します。

金額単位：円

区分	平成31年4月		令和元年5月		令和元年6月		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
弔慰	0	0	0	0	0	0	0	0
見舞い	0	0	0	0	0	0	0	0
祝儀	1	3,000	1	5,000	1	5,000	3	13,000
会費	1	4,000	2	9,000	2	7,000	5	20,000
接遇	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2	7,000	3	14,000	3	12,000	8	33,000



編集後記

改選に伴い、市民の皆様からの負託を受けた新しい顔ぶれの16人。互選で議長、副議長、各委員会の委員長を決め、新体制で臨んだ令和の御代となつて初めての議会でした。

この議会だよりの編集も、新たな4人プラス副議長で1年間務めます。読んで頂ける判りやすい紙面づくりを目指して取り組んでまいりる所存ですが、お気づきの点やアドバイス等ございましたら、議会または顔見知りの議員まで連絡頂けましたら励みとなります。皆様からのお声をお待ちしております。



【編集委員】

委員長 勝屋 弘貞
副委員長 徳村 博紀
委員 中村 日出代
顧問 松田 義太

樋口 作二

※この議会だよりは、全て原稿提出者の責任により編集されています。